

COP10のレガシーを継承し
SDGsゴールの空白の10年を埋める
COP15で採択される新戦略計画へのアクション

2019/3/25

博報堂DYホールディングス

川廷 昌弘

COP10でのNGOスピーチ



名古屋国際会議場
2010/10/20

NGOの立場となり教育とコミュニケーションの決議で
公式スピーチを実現し修正決議を引き出した

「物多様性戦略計画2011-2020」に収められた目標を利用し
普及啓発、教育を促進するための活動の継続と
更なる向上を締約国へ求める

STRATEGIC PLAN FOR BIODIVERSITY 2011–2020 AND THE AICHI BIODIVERSITY TARGETS

"Living in harmony with nature"

The purpose of the Strategic Plan for Biodiversity 2011-2020 is to promote effective implementation of the Convention through a strategic approach, comprising a shared vision, a mission, and strategic goals and targets ("the Aichi Biodiversity Targets")

It will also serve as the basis for the development of communication tools capable of attracting the attention of and engaging stakeholders, thereby facilitating the mainstreaming of biodiversity into broader national and global agendas.

VISION

The vision for the new plan is: "Living in Harmony with Nature" where "By 2050, biodiversity is valued, conserved, restored and wisely used, maintaining ecosystem services, sustaining a healthy planet and delivering benefits essential for all people."

生物多様性の戦略計画2011-2020と愛知ターゲット

「自然と調和した暮らし」

「生物多様性戦略計画2011-2020」の目的は、共通のビジョン、ミッション、戦略的な目標と目標（愛知ターゲット）を含む戦略的アプローチを通じて、条約の効果的な実施を促すことです。

それは、ステークホルダーの理解を促し、生物多様性の国内および世界的な目標達成への主流化を促進することができる**コミュニケーションツールの開発の基礎として役立つ**でしょう。

ビジョン（中長期目標2050年）

「**自然と調和して生きる**」それは、「**2050年までに**、生物多様性が評価され、保全され、回復され、そして賢明に利用され、そのことによって生態系サービスが保持され、健全な地球が維持され、全ての人々に不可欠な恩恵が与えられる」

United Nations Decade on Biodiversity 国連生物多様性の10年

「生物多様性条約市民ネットワーク」の提言を日本政府案として提出し採択



2010年9月22日：

第65回国連総会では、
生物多様性について話し合われた。

2010年12月22日：

国連総会は、2011-2020年を
「国連生物多様性の10年」とすることを
決定（決議65/161）。



Living in harmony with nature

Home

About

Actions

Actors

Resources

Dashboard



採択された決議の中から注目する文書

12. Reaffirms the intrinsic value of biological diversity as well as the ecological, genetic, social, economic, scientific, educational, cultural, recreational and aesthetic values of biological diversity and its components, taking into account their importance for sustainable development

12. 持続可能な開発のための重要性を考慮しながら、生物多様性の本質的な価値、ならびに生物多様性の生態学的、遺伝的、社会的、経済的、科学的、教育的、文化的、レクリエーションおよび美的価値を再確認する。

Biodiversity and the SDGs

生物多様性条約事務局が掲げる「生物多様性とSDGs」

In order to achieve a just balance among the economic, social and environmental needs of present and future generations, **it is necessary to promote harmony with nature**. The Sustainable Development Goals acknowledge the natural and cultural diversity of the world, and confirm that all cultures and civilizations can contribute to sustainable development.

現在及び将来世代に向けて、環境・社会・経済の公正なバランスを達成するために、**自然との調和を促進する必要がある**。SDGsは、世界の自然と文化の多様性を認め、すべての文化と文明が持続可能な開発に貢献できることを認めている。

Biodiversity relates to all 17 Sustainable Development Goals but there are two proposed goals that explicitly refer to it goals 14 and 15. Other targets associated with biodiversity 2.4, 2.5, 6.6, 8.4, 12.8.

生物多様性はSDGs17ゴールの全てに関連しているが、それを明示的に参照するのが目標14.15であり、そのほかの目標で関連するものは、2.4, 2.5, 6.6, 8.4, 12.8などがある。

COP10のレガシーをCOP15に、そしてSDGsに

今回の提言

- ・日本政府が提案し国連が採択した2050年のビジョンを踏まえ
- ・COP15で策定する生物多様性戦略に向けてイニシアチブを発揮し
- ・ハイレベル政治フォーラムを経てCOP15に向けたシナリオを実施する
- ・そのために日本国内の具体的な成果を活用し具体的な提案にまとめる
 - 1、地域循環共生圏構築事業
 - 2、生物多様性アクション大賞
 - 3、SDGs日本モデル宣言

「自然と調和した暮らし」の概念は、2010年1月に日本から生物多様性条約事務局に提案したもので、我が国において古くから培われてきた自然共生の考え方や知恵が、広く世界各国の理解と共感を得たものといえます。

(環境省ウェブサイトより)

地域循環共生圏構築事業

環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業費

2019年度要求額
500百万円（新規）

背景・目的

「第五次環境基本計画」（平成30年4月閣議決定）では、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な地域づくりを担う人材育成を行うこととしている。

これを受け、各地域における「地域循環共生圏」の創造に向けた取組を強力に推進するとともに、それらを担う人材を育成していく。

事業概要

地域循環共生圏の創造を強力に推進するため、地域循環共生圏づくりプラットフォームを構築し、①～⑤の業務を行う。

①持続可能な地域づくりのための人材育成

地域づくりを担う人材を育成するため、先進的な地域から、新たに地域づくりに取り組む住民・事業者・行政・NPO/NGO等に対しノウハウを伝授するための研修会（実地研修を含む）等を実施する。

②地域協議会の運営支援

住民・事業者・行政・専門家・NPO/NGO等が対等の立場で参加し、構想の策定、構想に基づく計画の策定等を行う協議会の運営を支援する。

③地域循環共生圏創造支援チーム形成

地方公共団体等が、地域の有する資源の調査や活用方策の検討等を行い、都市と農山漁村の交流・連携事業、都市鉱山の利活用、食品ロス対策、地域を象徴する生物の保全と連動した農産物のブランド化や観光振興などの地域循環共生圏創造に向けた計画の具体化にあたって、必要な支援を行うチームを形成し派遣する。チームの派遣により、官民協働で、地域の実情に応じた地域循環共生圏創造に向けた事業計画を策定し、実現に際しては、関連する予算事業により支援していく。

④総合的分析による方策検討・指針の作成等

先進的な事例を調査して詳細に分析・評価し、その結果を他の地方公共団体に対してフィードバックすることにより、取組の充実を促す。

⑤戦略的な広報活動

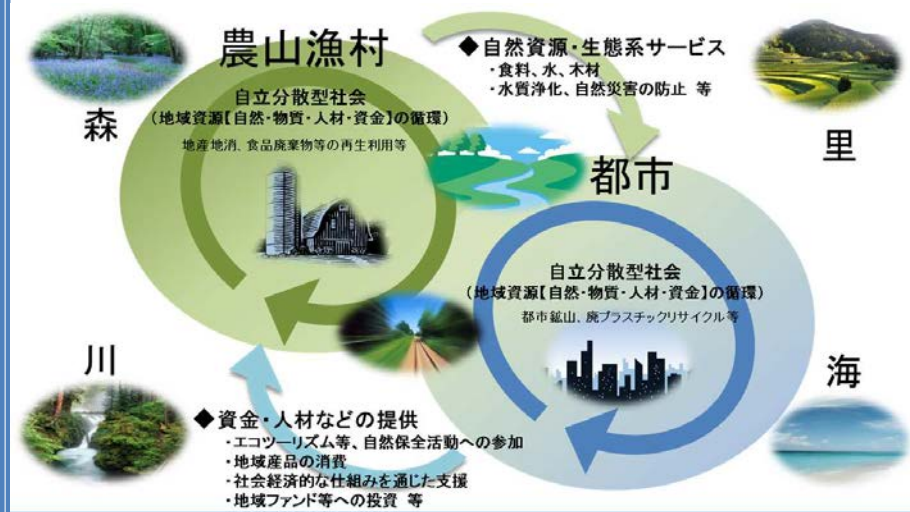
都市部のライフスタイルシフト等に向けた戦略的な広報活動（シンポジウムの開催、国内外への発信）等を実施する。

事業目的・概要等

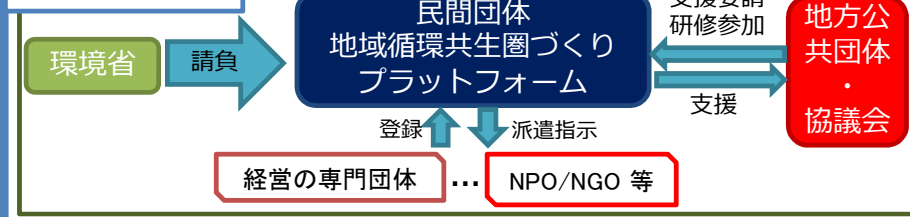
地域循環共生圏

イメージ

○各地域がその特性を生かした強みを発揮
→地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
→地域の特性に応じて補完し、**支え合う**



事業スキーム



実施期間：2019～2023年度

期待される効果

今後5年間で地域循環共生圏の創造に取り組み、地域の経済・社会の課題を環境政策を通じて同時解決し、環境ビジネスの創出等を通じて、地方を元気にしていく。

「国連生物多様性の10年日本委員会」主催事業



● たべよう 石巻市立大原小学校
● ふれよう とくしま生物多様性リーダーチーム
● つたえよう 北九州・魚部（現NPO法人）
● まもろう 株式会社加藤建設
● えらぼう 特定非営利活動法人つくしん棒

※写真は2017年度優秀賞受賞活動

生物多様性アクション大賞 2013—2017 優秀賞・特別賞受賞団体一覧

★ 優秀賞 ● 特別賞 ● たべよう ● ふれよう ● つたえよう ● まもろう ● えらぼう

京都府 特定非営利活動法人加茂女 ★ 大賞 2015
株式会社島津製作所「エーゴクラブ」★
京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発班」●
ほか入賞 6件

大阪府 雨ふる大地の水辺保全ネットワーク ★
特定非営利活動法人ニッポンバラタナゴ高安研究会 ★
特定非営利活動法人里山倶楽部 ●
サラヤ株式会社 ●
地球環境関西フォーラム ●
ほか入賞 5件

兵庫県 海と空の約束プロジェクト ●
兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班 ●
ほか入賞 8件

奈良県 入賞 3件
鳥根県 認定特定非営利活動法人自然再生センター ●
ほか入賞 1件

山口県 入賞 1件
岡山県 入賞 2件
広島県 入賞 2件
徳島県 入賞 2件

高知県 特定非営利活動法人三瀬の自然を守る会 ●
入賞 1件

福岡県 糸島こよみ舎 ★ 大賞 2016
北九州・魚部（現NPO法人）★ 農林水産大臣賞 2017
ほか入賞 4件

佐賀県 入賞 1件
長崎県 入賞 1件
熊本県 特定非営利活動法人田舎のヒロインズ ★
特定非営利活動法人天明日の会 ●
みさを大豆研究班 ●

宮崎県 一般社団法人てはの森の会 ★
ほか入賞 3件

鹿児島県 カエル PROJECT ●
ほか入賞 1件

沖縄県 石垣市立伊原間中学校 ★
泡瀬干潟博物館カフェ「ウミエラ館」●
ほか入賞 4件

新潟県 入賞 4件
富山県 魚津三太郎倶楽部 ●
富山県立大学 ●
ほか入賞 3件

石川県 まるやま組 ★ 大賞 2014
特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所 ●
ほか入賞 5件

福井県 株式会社森と暮らしどんぐり倶楽部 ★
ほか入賞 1件

滋賀県 アイキッズ〜エコアイデアキッズびわ湖 ★ 大賞 2013
湖南企業いきもの応援団 ★
流川いきものがたり作成支援委員会 ★
流川小学校・滋賀の郷土料理学習実行委員会 ●
せせらぎの郷 ●
ほか入賞 2件

三重県 クオドラント・プラスチック・コンポジット・ジャパン株式会社 ★
特定非営利活動法人大杉谷自然学校 ●
ほか入賞 3件

愛知県 株式会社加藤建設 ★ 環境大臣賞 2017
環境ボランティアサークル亀の子隊 ●
ほか入賞 7件

長野県 入賞 4件
岐阜県 特定非営利活動法人つくしん棒 ●
山梨県 富士山アウトドアミュージアム ★
かとうさんち ●
特定非営利活動法人都留環境フォーラム ●
山梨県立吉田高等学校放送部 × 富士山アウトドアミュージアム ●
ほか入賞 2件

静岡県 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島 ●
ほか入賞 2件

北海道 株式会社アレフ ●
ほか入賞 7件

青森県 青森県立名久井農業高等学校 草花班／伝統野菜班 ●
特定非営利活動法人ういむい未来の星 CSO ●
ほか入賞 1件

岩手県 臼澤鹿子踊保存会 ●
大船渡市立末崎中学校 ●
ほか入賞 2件

山形県 やまがたヤマネ研究会 ●
宮城県 石巻市立大原小学校 ★
日とキッチン ★
あじ島冒険学校 ●
石巻海さくら ●
石巻海さくら ●
特定非営利活動法人エコバリエーション ●
一般社団法人くりはらツーリズムネットワーク ●
気仙沼市立大谷中学校 ●
気仙沼の魚を学校給食に普及させる会 ●
特定非営利活動法人田んぼ ●
松島湾アマモ場再生会議 ●
ゆりりん愛護会 ●
ほか入賞 3件

福島県 いわき海洋調べ隊・うみラボ ●
栃木県 入賞 1件
群馬県 群馬県立尾瀬高等学校自然環境科 ●
ほか入賞 1件

埼玉県 入賞 9件
千葉県 特定非営利活動法人 大山千枚田保存会 ●
カシニワ・フェスタ実行委員会 ●
ほか入賞 4件

東京都 公益財団法人東京動物園協会井の頭自然文化園 ★
フェアウッド・パートナーズ ●
三菱地所レジデンス株式会社 ★
赤坂みつばち ●
こども国連環境会議推進協会 チーム「365×3」 ●
特定非営利活動法人子どもの森づくり推進ネットワーク ●
特定非営利活動法人自然文化誌研究会 ●
一般社団法人 Think the Earth ●
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 ●
全国農業協同組合連合会 広報部 ●
東芝グループ ●
富士ゼロックス株式会社 ●
特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本 ●
ほか入賞 41件

特定非営利活動法人海の森・山の森事務局 ●
特定非営利活動法人小網代野外活動調整会議 ●
ほか入賞 9件

★環境大臣賞、農林水産大臣賞は2017年度より設置されました

生物多様性につながる
あなたの活動を応募しよう

第6回

生物多様性 アクション大賞 2018

活動情報
大募集！

2018年9月3日(月)まで
※予定が変更になる場合があります

<http://5actions.jp/award/>

特別賞

- 環境大臣賞
- グリーンウェイブ賞
- セブン・イレブン記念財団賞
- SDGs賞
- 若手奨励賞 ほか

詳しくはウェブサイトをご覧ください

環境大臣賞
(優秀賞から1名)
30万円

農林水産大臣賞
(優秀賞から1名)
30万円

優秀賞
(各部門1名)
5万円

※活動支援金はUNDOBより提供されます。

レッツ・ギョー!!
アクション大賞のギョー応募
お待ちしております!!

企業も
自治体も
NPO/NGOも
学校も

さかなクン
生物多様性アクション大賞 2018
アンバサダー

「SDGs日本モデル」宣言



SDGs 全国フォーラム2019

私たちが一人ひとりの行動が、
未来につながる。
SDG 未来経営 神奈川県



「SDGs日本モデル」宣言

私たちが目指すのは、人々の暮らしと自然環境の調和のとれた持続可能な社会の実現です。SDGsは、世界共通の目標であり、日本もこれに取り組むべきです。日本は、SDGsの実現に向けて、様々な取り組みを行っています。日本は、SDGsの実現に向けて、様々な取り組みを行っています。日本は、SDGsの実現に向けて、様々な取り組みを行っています。

1. 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取り組み
2. SDGsの実現に向けた取り組み
3. SDGsの実現に向けた取り組み
4. SDGsの実現に向けた取り組み
5. SDGsの実現に向けた取り組み
6. SDGsの実現に向けた取り組み
7. SDGsの実現に向けた取り組み
8. SDGsの実現に向けた取り組み
9. SDGsの実現に向けた取り組み
10. SDGsの実現に向けた取り組み
11. SDGsの実現に向けた取り組み
12. SDGsの実現に向けた取り組み
13. SDGsの実現に向けた取り組み
14. SDGsの実現に向けた取り組み
15. SDGsの実現に向けた取り組み
16. SDGsの実現に向けた取り組み
17. SDGsの実現に向けた取り組み



「SDGs日本モデル」宣言

私たち自治体は、人口減少・超高齢化など社会的課題の解決と持続可能な地域づくりに向けて、企業・団体、学校・研究機関、住民などとの官民連携を進め、日本の「SDGsモデル」を世界に発信します。

1

SDGsを共通目標に、自治体間の連携を進めるとともに、地域における官民連携によるパートナーシップを主導し、地域に活力と豊かさを創出します。

2

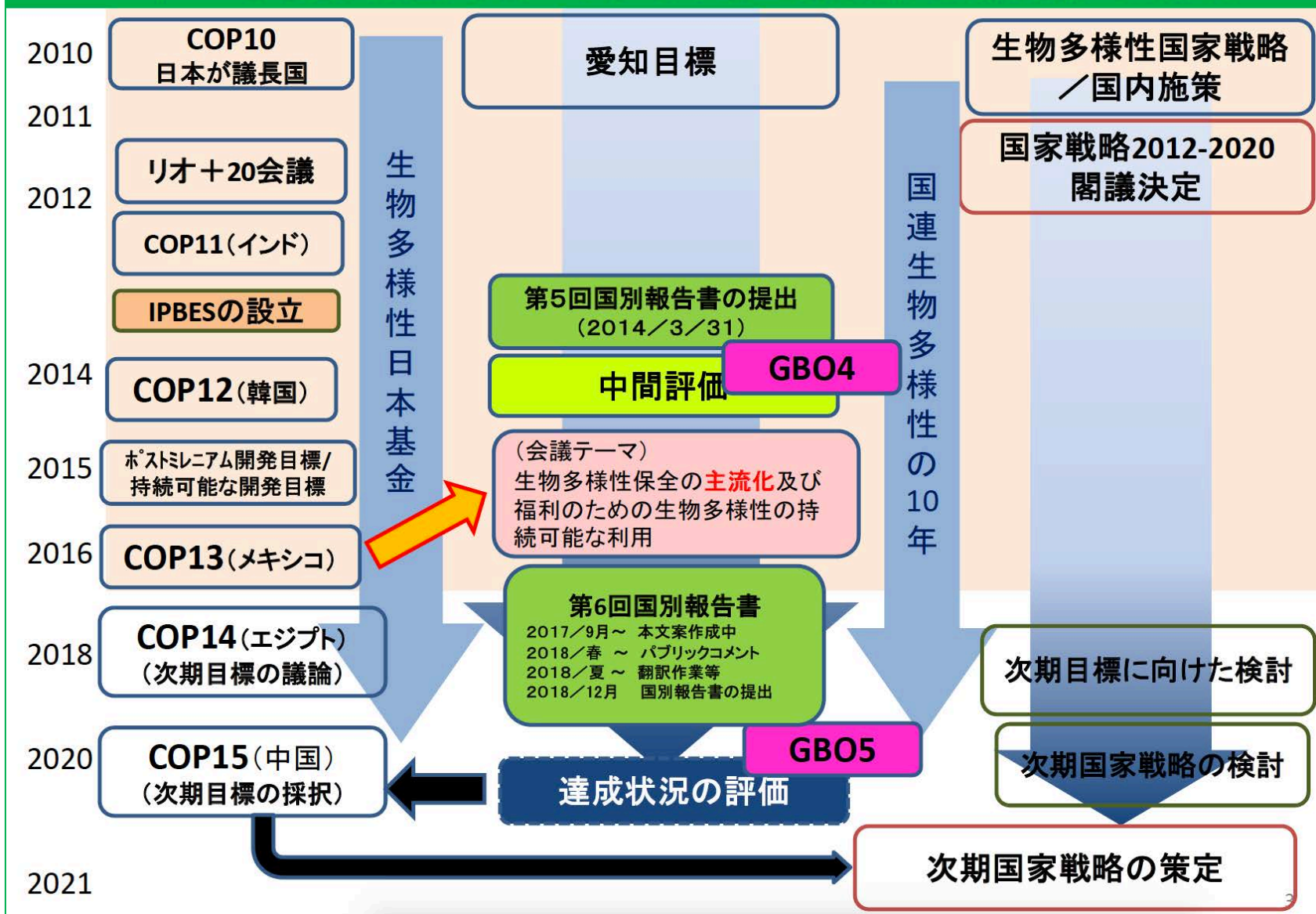
SDGsの達成に向けて、社会的投資の拡大や革新的技術の導入など、民間ビジネスの力を積極的に活用し、地域が直面する課題解決に取り組めます。

3

誰もが笑顔あふれる社会に向けて、次世代との対話やジェンダー平等の実現などによって、住民が主役となるSDGsの推進を目指します。

COP15に向けた動き

1 ポスト愛知目標に向けた国際的な議論の流れ



COP15に向けたシナリオ考察

SDGs & 生物多様性のロードマップを考える

